

令和 3 年 8 月 10 日

令和 3 年度第 2 回政策討論会第二分科会要点記録

○令和 3 年 8 月 10 日（火）10：00～10：56

出席者：中井（座長）、宇野（副座長・記）、反甫、桑原、京西、松本、岡林、雪本

●目的：岸和田市の現状把握

●京西議員より資料の提供を受け、資料についての説明を受けた。

・本市にある 77 の指定・登録文化財のうち、岸和田市所有が 22、寺社や個人など民間所有は 55 です。市の文化財保護費は 2,000 万円から 2,500 万円程度で、文化財の保護に係る直接費は約 40%であり十分とはいえません。郷土文化課の文化財保護予算は、文化財所有者からの要望を基に編成（要求）するため、中長期の計画的な保存管理が行えていない。文化財保護基金についても、積立て財源が五風荘（市指定文化財：飲食施設として利用）を運営管理する指定管理者からの納入金のみで、平成 27 年度の 645 万円/年から減少を続け昨年度は 100 万円/年となったことから、積立て財源を確保する対策が必要です。併せて、文化財業務の専門職員の確保と育成が必要です。

・文化財保護に係る構造的な問題点は、「文化財所有者の後継者と維持補修費用」、「国・自治体の財政難による補助事業の縮小」、「技能者・技術者の技術活用のマーケットが無いので、このままでは、

保存技術や補修材が消失する」の３点に有ると思う。これ等の問題解決が必要である。文化財保護を進めるにあたって、明確な到達目標を設定し、且つ、歴史と文化の流れ(ストーリー)を完成する事を忘れてはならない。本市の文化財は、公開や活用がなされていない。本市の担当者に、文化財の収蔵や活用について、また、目標や要望について聞きたい。

- ・ 予算だけでなく、人材の問題、高石市との広域の話が出ているので今までとは変わってくるのではないかと期待している。市指定文化財についてのストーリーを含めて、担当課の話を聞きたい。文化財の保存、保護の経過について話を聞きたい。

- ・ 久米田池交流資料館に、昔の農作業に使われていた道具が展示されているが、むしろを敷き、その上に置かれてあるだけ。予算の事もあるだろうが、ケースなどに入れて展示すればどうかと思う。交流資料館を見学に来られる方もおられるので。交流資料館の敷地内の１番隅っこに木樋管の一部とされる石製の物が置かれている。ルーツをたどれば、当時の農業の歴史としても残せるのにと残念。私自身も、専門家の方々に文化財の事をもっと詳しく教えて頂き勉強したい。理解が深まれば意識も変わると考える。

- ・ 現在本市では、開発行為に伴う発掘はほぼ無い状態であるが、純粋な学術的な発掘を考えると和泉地方の前方後円墳としては最古級に位置づけられる古墳になる摩湯山古墳などがあり、発掘技術の継承や人員の確保が課題であると考えます。

- ・ 岸和田市内には、たくさんの文化財があり、それらをいろんな人に知ってもらう必要がある。新たな発掘も大事で、もっと活発化さ

せる必要がある。久米田池から出てきた木樋管の管理も大事で、出てきた時の盛り上がりと同じように、これからも盛り上げていきたい。

・文化財の保護に関する予算は少ないと感じるが、限られた財源の中でこのようになっていると思うので、この分科会で予算を増やした方がいいとなっても、どこかで市民サービスを削ることになるので、その点を踏まえて議論をしなければならないのではないかな。また、地域のことについて詳しい方も多くいるが高齢化が進んでおり、市として情報を伺う機会を設けるべきではないかな。

次回の開催は、9月28日（火）10時から
郷土文化課を招聘し、岸和田市の文化財についての共通認識を深める。